

「思春期から青年期のてんかん患者の心理的支援」

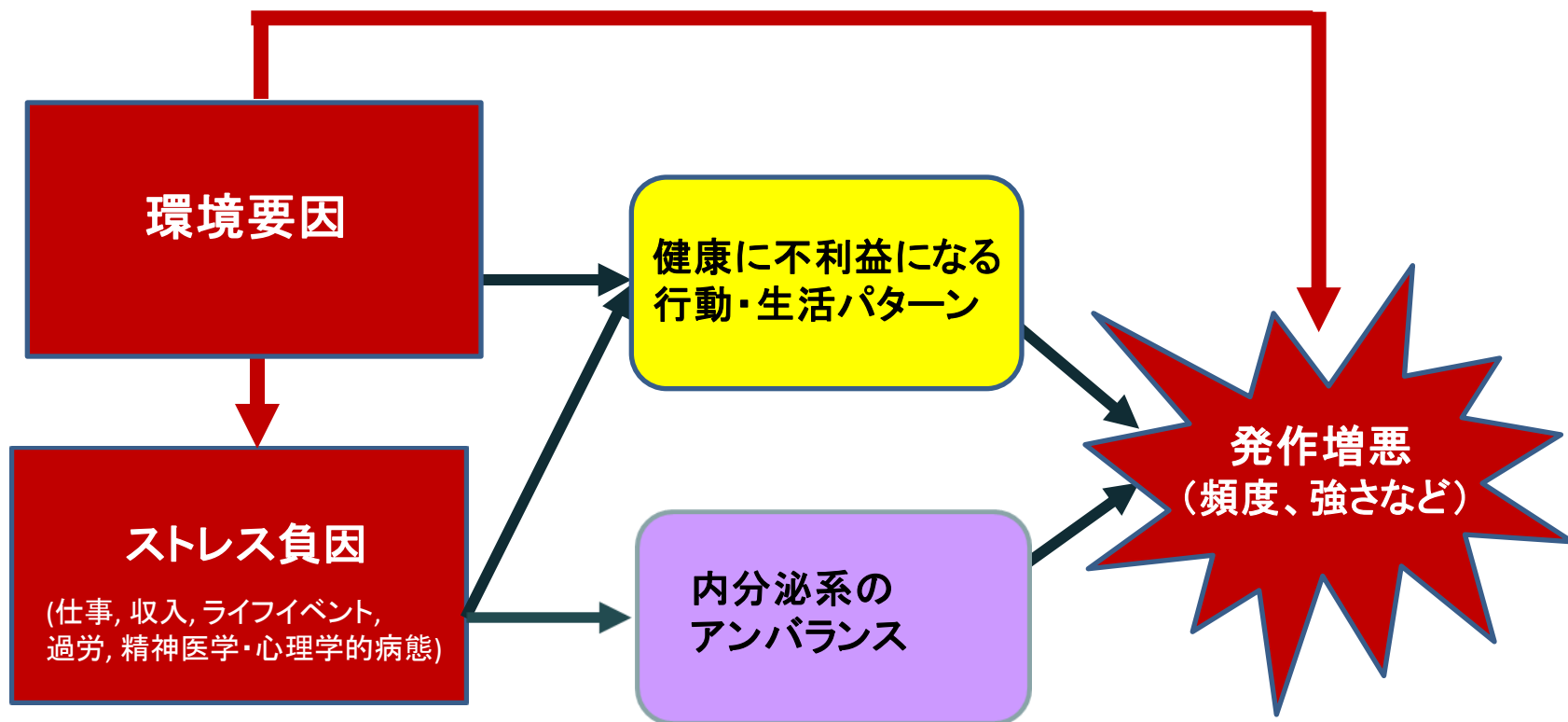
指定発言：

てんかんにおける精神医学・心理学的支援の 意義と誤解

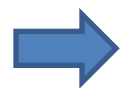
木更津病院 きさらづてんかんセンター センター長
岩佐 博人

配布資料：無断使用禁止

発作発現リスクと過剰なストレスの悪循環を断つ



てんかんのメンタルヘルスへの対応は、
発作そのものの抑制にもつながる！



発作抑制へのセルフコントロール

木更津病院 きさらづてんかんセンター センター長 岩佐博人

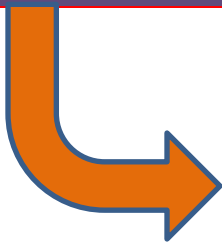
Elisa Baldin, et al. Epilepsia 2017より引用改変

てんかんと精神医学・心理学的支援(心のケア)

木更津病院 きさらづてんかんセンター センター長 岩佐博人

精神医学的・心理学的側面への対応は**2段階**で対応を考慮する

1. 一般的なメンタルヘルスへの心理的支援



併存症の有無にかかわらず
あらゆる支援者が対応を意識する必要あり

(必要に応じて精神科・臨床心理の専門家との連携)

2. 特別な精神医学的併存症があれば・・・

精神科・臨床心理の専門家との連携

てんかん臨床での「心のケア」は常に念頭に置くべき普遍的なものである

てんかんと「心のケア」の意義と誤解

木更津病院 きさらづてんかんセンター センター長 岩佐博人

優しさ・親切・同情 **×** 心のケア

“人の心など分かるはずがない”(河合1998.) という大前提で

★テクニックよりも**支援者の「姿勢」**が大切

励まさない！ 否定しない！ 解釈しない！ 説教しない！ 聴くに徹する！

★「支援者自身の心の動き」にも気づいていくこと

★「感情(数値化できない側面)」への視点を忘れない！

★大事なことは「言葉にならない」こともある！

★主役は当事者(クライアント)！あなたが”治してあげる“のではない！

「(他者の)心」を「私の)心」で思うこと…メンタライゼーション

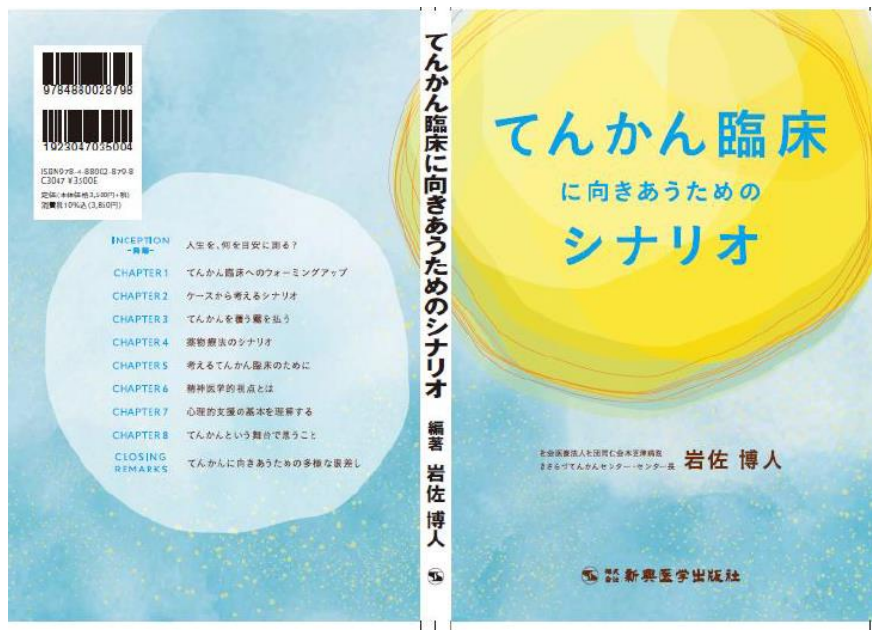
★決められた**「枠」**の中で！…「限界」もある

宣伝のようですが、よろしければ
関連内容については以下の書籍をご参照ください

岩佐博人 編著

「てんかん臨床に向きあうためのシナリオ」

振興医学出版社 2021,



てんかんを専門としない、あるいはてんかんを遠ざけている医療・福祉関係者向けに、心理面にも焦点を当てながら、てんかんとともに生きる方への対応の実際を、心理士や精神医学的な面も重視しているてんかん専門医の協力を得ながら記したものです。できるだけ専門家以外の方にもてんかんへの抵抗感を減らせればという思いで著したものです。

因みに、てんかん全般の「教科書的」な本ではありません。(編著者 岩佐)